

2024 年度事業報告 (令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)

1. 庶務関係

(1) 会員数の状況 (令和 7 年 3 月 31 日現在) 各項右側前年同期増減

ブロック	正会員		学生会員		総数	
東北・北海道	102	+3	7	-2	109	+1
関東	412	-11	45	+3	457	-8
東海・北陸	118	-4	7	+3	125	-1
近畿	210	+3	23	-3	233	±0
中国・四国	120	±0	21	-2	141	-2
九州	95	±0	0	±0	95	±0
海外	2	-2	0	±0	2	-2
計	1059	-11	103	-1	1162	-12

団体会員 153 団体、賛助会員 44 団体、顧問 3 名

(2) 代議員総会の開催

令和 6 年 6 月 2 日 (日)、Zoom ミーティングを利用し、オンラインにて開催した。決議事項の投票は Google フォームで行った。

(3) 年次大会の開催

令和 6 年 9 月 6 日 (金)、7 日 (土) 関東支部担当で、鎌倉女子大学 大船キャンパス(神奈川県鎌倉市)において、全面对面方式で開催した。

(4) 一社)日本調理科学会創立 60 周年記念事業

「調理科学の百科事典」(丸善出版)刊行に向け、2023 年度に正式な執筆依頼を行った著者に、2024 年 11 月末までに原稿提出を依頼した。2025 年 3 月 4 日現在 281 項目中 244 項目=約 87%が入稿しており、3 月 27 日までに初校組版手配済みである。

(5) 研究の奨励及び研究業績等の表彰

学会賞 1 名、奨励賞 1 名、功労賞 6 名の表彰を年次大会で行った。また大会において若手研究者発表奨励賞の投票を行い 3 名の表彰を行った。

(6) 会議の開催

① 理事会	4 回	② 編集委員会	5 回
③ 学会賞選考委員会	2 回	④ 刊行委員会	2 回
⑤ 規程委員会	1 回		

2. 企画・広報関係

(1) 年次大会、講演会、研究会企画を中心とした活動を行った。

(2) 6 月 2 日 (日)、講演会を Zoom ウェビナーにて開催した。古谷彰子氏(早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 招聘研究員、愛国学園短期大学 准教授)に「時間栄養学から考える食事」を、2023 年度日本調理科学会学会賞受賞講演として柴田圭子氏(女子栄養大学 教授)に「調理による食品の嗜好性向上に関する研究」をテーマにご講演いただいた。なお、これらの広報は、日本家政学会、日本食品科学工学会、日本応用糖質科学会、生活科学系コンソーシアム等にご協力いただいた。また、次年度講演会(6 月 8 日)の準備を行った。

3. 常置委員会関係

(1) 編集委員会 『日本調理科学会誌』の発行 年 6 回発行 A4 判

第 57 巻 第 2 号 1,500 部、第 3 号 1,500 部、第 4 号 1,500 部、第 5 号 1,500 部、第 6 号 1,500 部
第 58 巻 第 1 号 1,500 部

編集・刊行

① 論文投稿状況 (令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)

報文 24 編、ノート 6 編、資料 8 編、教材研究 1 編 計 39 編

② 論文審査状況

区分	掲載済	印刷待ち	著者取り下げ	却下	審査・訂正中	計
2022 年度投稿	20	0	5	12	0	37
2023 年度投稿	21	1	3	12	1	38
2024 年度投稿	7	5	1	9	17	39

③ 学会誌 57 巻 2～6 号及び 58 巻 1 号掲載発行状況

区 分	2号	3号	4号	5号	6号	1号	合計
報文	0	2	1	3	1	1	8
ノート	3	0	0	0	0	2	5
資料	2	0	2	1	2	1	8
総説	0	1	1	1	1	1	5
講座	1	1	2	1	1	0	6
教材研究	1	1	1	1	1	1	6
クッキンググループ	2	1	1	1	1	2	8
トピックス&オピニオン	1	1	1	1	1	1	6
新刊紹介	0	2	2	0	0	0	4
ページ数	89	42	65	62	54	60	372

- ④ 学会誌発行後 1 週間以内に電子版を J-STAGE にて公開した。
- ⑤ 投稿規程と細則を改正し、投稿規程に改廃時の理事会の承認を追記し、細則に利益相反に関する項を追記した。

(2) 情報管理委員会

- ① 事務局と協力しホームページ等の管理、運用を行った。ホームページ暗号化を完了し、ホームページのリニューアルを実施中である。
- ② 2024 年度大会演題登録及びホームページはアトラス社の Confit スタートプランを利用して行った。
- ③ メール・ニュースを 4 月 2 日号より 1 月 15 日号まで計 18 回 (jscsnews:142~159) 発行した。メール・ニュース用のアドレス更新を 4 回 5 月、9 月、12 月、2 月に行った。
- ④ 転載申請に対し許諾の判断を行った。場合により学術著作権協会への申請を依頼した。

4. 渉外関係

- (1) 日本学術会議協力学術団体として生活科学系コンソーシアムの活動を行った。
- (2) 下記の関連学協会等と事業の共催、協賛、情報交換を行った。
(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団、(公財)浦上食品・食文化振興財団、(一社)日本家政学会、(公社)日本栄養・食糧学会、(公社)日本食品科学工学会、(公社)日本水産学会、NPO 法人日本栄養改善学会、(一社)日本応用糖質学会、日本家庭科教育学会、日本食生活学会、(一社)日本官能評価学会、日本熱物性学会、日本高圧力学学会、(一社)和食文化国民会議、全国家庭科教育協会、(公財)不二たん白質研究振興財団、(一社)日本レオロジー学会、NPO 法人うま味インフォメーションセンター、日本熱測定学会、(公財)ソルト・サイエンス研究財団、その他の学協会

5. 研究委員会関係

- (1) 災害時のメニュー開発に関する研究委員会は、6 月 2 日会議を実施し、能登半島地震での炊き出し支援について、和井田結佳子氏 (京都光華女子大学)、熊谷奈々氏 (中村学園大学)、飯田芳幸氏 (NPO キャンパー代表理事) にご報告いただいた。2019 年度大会以来コロナ禍の影響で休止していたデモ調理を 2024 年度大会で 5 年ぶりに実施、100 食を提供した。NPO キャンパーの活動参画をより円滑に行う仕組みについて検討した。なお創立 20 周年を迎えた NPO キャンパーより、20 年共に続けた活動に対し感謝状を頂戴した。
- (2) 旧次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理研究委員会は、家庭料理研究委員会 WEB サイトを更新し、総まとめ報告書の PDF を 4 月末に公開した。学会誌クッキンググループに家庭料理研究委員による研究結果報告を 7 報掲載した。
- (3) 特別研究「多様な調理法と家庭料理の伝承」研究委員会は、調査結果の概要を日本調理科学会誌第 57 巻 2 号に掲載し、2022・2023 年度「多様な調理法と家庭料理の伝承」調査報告書を 7 月発刊した。年次大会においてポスター発表(38 演題)を行った。学会誌に、東海・北陸支部からの投稿論文 1 件が掲載可となり、中国・四国支部からの投稿 2 件が審査中である。その他、2025 年度大会発表ならびに論文投稿に向け準備中である。

6. 特別委員会関係

- (1) 刊行委員会は、創立 40 周年記念事業であるクッカーサイエンスシリーズの刊行を通して、調理科学研究の情報発信の場また調理科学を広く紹介することを目的とし、引き続き活動中。4 月に 12 冊目「おいしいたまごのはなし 峯木真知子・小泉昌子・設楽弘之共著」を刊行した。広く会員から執筆希望者を募るべく、学会誌 58 巻 1 号に「刊行委員会からのお知らせ」を掲載し、出版相談窓口として刊行委員の連絡先を掲載した。
- (2) 50 周年記念出版委員会は、農文協と協力し、農文協の会員制データベース「ルーラル電子図書館」の「伝え継ぐ 日本の家庭料理」コーナーに、「全集 伝え継ぐ 日本の家庭料理」に掲載した料理を含む各都道府県が選んだ 40 品目全ての料理と「調理科学の目」「読み案内」の公開を完了した。